

平成22年 2月 定例会

◆(淵上陽一君)最後にお尋ねいたしますのは、**林業振興**についてであります。

私の地元である鹿本地域には、民有林が約1万5,000ヘクタールありますが、他地域と同様、林業の長期低迷により森林所有者の林業経営意欲が減退し、間伐等がおくれるなど適切に管理されない森林が増加してきております。

それに加え、鹿本森林組合の森林整備に当たる人員は総数62名、うち50歳以上が82%、60歳以上が23%を占めており、年々高齢化が深刻化すると同時に、新規採用が厳しさを増していることによって、これまでのように適切な整備が期待できない状況にあります。

一方、地域の建設業においても、公共工事の減少や競争の激化が続くなど、経営環境は厳しさを増す一方であります。

そこで、鹿本地域においては、こうした林業と地域建設業の現状を踏まえ、鹿本地域振興局林務課が中心となり、森林の管理や整備にノウハウを有する森林組合と人員や機械力を有する建設業者とが連携し、水資源の確保や県土保全といった多様な公益的機能を持つ森林づくりを行うことで、地域の生活環境の保全や産業の活性化に寄与できないかと協議を重ねてこられました。

その結果、林業の再生を図る新たな担い手集団として、鹿本地域における建設業14社と森林組合及び行政から成るふるさと森林づくり隊を設立するに至りました。

中山間地域の建設業は、砂防、治山、林道工事などにより、森林に道を開き大型機械を操縦するのにもなれており、林業の近代化を支援する潜在能力があります。

しかも、近年の公共工事の減少で建設就業者が余剰となり、これといった産業のない中山間地域では、その働く場が強く求められております。

一方、林業においては、林業従事者が年々減少し、新たな担い手が求められている中、緑の雇用制度を活用しても厳しい状況にあり、私も作業班の方と話をさせていただきましたが、毎日が命がけの仕事でありながら所得が年収200万円に満たない現状では、就労者の定着は厳しいとのことでありました。

私は、これ以上の森林の荒廃を防ぎ、地球温暖化対策に寄与するためにも、建設業の林業参入を促し、林業の熟練技能を継承しながら、林業と建設業が共同して新しい林業システムを確立することが重要であると思います。

ふるさと森林づくり隊は、初年度は各社自費による資格取得や研修が中心でありましたが、2年目は、国土交通省による建設業と地域の元気回復助成事業の採択を受け、高性能林業機械をレンタルし、機械化作業の研修に取り組んでおりますし、3年目の22年度には、高性能林業機械を用いた間伐の実施、木材搬出の現地研修を行い、23年度には森林整備に入れるところまで来ております。

この取り組みは、林業、建設業の業種を乗り越え、建設業が森林整備に貢献したいという強い思いの中で、ここに至っております。

しかしながら、今心配されておりますのは、森林整備の仕事の量が十分に確保できるかということでもあります。

もちろん、3年間の研修ではできる仕事は限られていると思いますが、県におかれては、技術を習得した建設業の方々を、森林の基盤整備や間伐を初めとする森林整備にどのように活用していかれるのか、農林水産部長にお尋ねいたします。

〔農林水産部長廣田大作君登壇〕

◎農林水産部長（廣田大作君） 森林の整備に建設業などの方々も従事できるようにする林建連携の取り組みを進めることは、適切な森林の整備を推進するためにも、また、中山間地域の活性化を図るためにも、極めて重要であると認識しております。

このため、地域ごとに、林業分野と建設業分野などから成る協議会を設置し、森林の情報を持つ森林組合と土木技術に精通した建設業が、協力しながら森林整備ができるような仕組みづくりに取り組みます。

次に、林業の作業は危険を伴うため、建設従事者などを対象に林業技術の習得のための研修を実施するとともに、建設機械を林業機械へ改造するためのアタッチメントの導入を支援してまいります。

さらに、森林所有者に施業を働きかける専門職員などを森林組合に配置し、零細な所有森林をまとめ、施業の集約化を推進することにより参入企業の経営が安定するよう、森林整備の事業量を確保してまいります。

このような対策を講じることにより、将来的には、高度な林業技術を習得し、林業事業体としての体制を備えた建設業の方々が、作業道整備のみならず間伐等の森林整備も実施できるような林建連携の体制を構築し、中山間地域の雇用の維持と森林整備の促進に努めてまいりたいと考えております。

〔淵上陽一君登壇〕

◆（淵上陽一君） 御答弁ありがとうございました。

鹿本地域における林業と建設業による共同の取り組みは全国的にも珍しく、九州では初めてのことであり、平成 21 年2月には全国森林計画研究発表会で最高位の優秀賞を受賞するなど、新たな雇用対策としても期待されているところでございます。

また、ふるさと森林づくり隊は、JA鹿本やタケノコ生産者等と山鹿の特産であるタケノコの生産拡大と竹材の利用拡大を推進することにより、適切な竹林管理ができるよう、今、山鹿バンブーネットワークの一員として、その力も期待されているところであります。どうか、農林水産部におかれましては、このことにつきましても御支援をいただきたいというふうに思います。

最後に、1点要望を申し上げます。

それは、鹿本地域における県立特別支援学校整備に関してであります。

鹿本地域は、上益城地域と並んで特別支援学校のない地域であり、児童生徒は、他地域への長時間通学により、重い体力的負担を余儀なくされており、加えて保護者の負担も重大であります。

このため、鹿本地域の関係者は、長年にわたって、このような負担を軽減する唯一の解決策として、県議会、県行政に対して、特別支援学校の設置を訴え続けておりますのは御承知のとおりでございます。

先月 22 日、県立特別支援学校教育整備推進協議会によって「今後の県立特別支援学校の整備について」と題した報告書が教育長に提出されました。

○議長（早川英明君） 残り時間が少なくなりましたので、発言を簡潔に願います。

◆（淵上陽一君）（続） その中で「特別支援学校がない地域については、身近な学校で学ぶことができるよう、特別支援学校の整備を図る。」との対応が提言されております。

厳しい財政状況の中ではありますが、既存の空き文教施設の活用など、知恵を出し合って、一日も早く鹿本地域に特別支援学校を開設していただきますよう、ここに改めて要望を申し上げます。

きょう予定をしておりました質問は、これですべて終わりました。毎日お酒を飲んでいるせいか、大変声が聞き苦しいところがあったかと思えますけれども、本当に最後まで御清聴いただきましてありがとうございました。